

教育

「スタートアップセミナー」の展開 【P.4左(1)】

- 三重大学独自の初年次向け教育プログラムである『「4つの力」スタートアップセミナー』の教育効果を高めるため、プログラムの全学的な開講を推進するとともに、「2011 版統一教科書」・『「4つの力」スタートアップセミナー授業補助者のためのガイドブック』を制作



◇中央教育審議会「キャリア教育・職業教育特別部会」において、教育目標達成に向けた取組事例の一つとして紹介される

学習意欲の向上に向けた各種取組の実施 【P.4左(2)】

- TOEIC IP テスト(1 月期)の 400 点未満学生に対する補習の必修



◇400 点未満学生の大幅な減少  
371 名<2009> → 289 名<2010> → 195 名<2011>

学生支援体制の強化 【P.4右(3)】

- 開放型グループ学習室「ラーニングcommons」の開設や、クラブハウス等の学生向け福利厚生施設の大規模改修など施設面での学習支援策を実施
- 外部認定資格に有効な学内資格取得教育プログラム「環境資格支援教育プログラム」「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」の推進
- 「三重大学学生支援方針」の策定や「キャリア・ピアサポーター宣言」の実施



◇キャリア教育プログラムと就業支援体制に係る独自策が文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」(GP)に採択される

社会との連携

地域防災事業の推進 【P.5右(6)】

- 三重県地域での減災・防災活動を主導する人財育成を目的とした三重大学独自の教育プログラムとして「美(うま)し国おこし・三重さきもり塾」(文部科学省科学技術振興調整費採択事業)を開校し、平成 22 年度は第 1 期生の受入れと修了生を輩出
  - ◇入塾生(特別課程生: 19 名、入門コース 47 名)
  - ◇修了生(特別課程生: 17 名、入門コース 46 名)
- 三重県との緊密な連携により「みえ防災コーディネーター育成講座」等を継続



◇三重さきもり塾の修了生等を中心とした地域防災ネットワークや県内防災拠点の形成に向けた基盤作りへの貢献

三重の力を世界へ

平成 22 年度(2010)の実績・その 1  
— 教育研究等の質の向上に係る状況編 —

国際化

学生の国際化に向けた独自プログラムの推進 【P.5右(7)】

[全学的な国際交流活動]

- 「3 大学ジョイントセミナー&シンポジウム」(三重大学、チェンマイ大学(タイ)、江蘇大学(中国)によって平成 6 年度に創設した国際化推進事業)の開催校であるチェンマイ大学(タイ)へ、学生 14 名(学部生 2 名、大学院生 12 名)を派遣し、英語による研究発表を実施

[部局別の国際交流活動]

- 天津師範大学(中国)と教育学部のダブルディグリーでは第 1 期生の第 2 次入学者 15 名を受け入れ
- スリウィジャヤ大学(インドネシア)と生物資源学研究所との間で新たにダブルディグリーを実施(派遣 1 名・受け入れ 3 名)
- 医学部の国際社会に貢献する医療人の育成を目的とした「海外エレクトティブ実習」では、平成 22 年度は 13 機関へ 64 名の学生を派遣



◇独自の国際交流教育プログラムが文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に採択される  
◇「リクルートカレッジマネジメント 168」において国際交流実績ランキング 19 位(国立大学中)を獲得

研究

研究活動の活性化に向けた取組 【P.5左(4)】

- 「三重大学 COE プロジェクト」(世界水準や国内トップレベルの研究成果創出を目指した三重大学独自の研究推進策)として、新たな研究プロジェクトを認定
- 「三重大学リサーチセンター」(異なる分野の研究者が分野横断的な研究グループを組織する三重大学独自の研究推進体制)へ、新たに 3 件のセンターを認定
- 若手研究者の育成を目指した「若手研究プロジェクト」や「若手研究者の海外研修支援制度」を実施



◇三重大学COEプロジェクト:  
COE-A→3件(各 300 万円/年)、COE-B→20 件(各 100 万円)へ配分  
◇若手研究プロジェクト:  
応募件数 38 件のうち、10 件へ各 50 万円を配分  
◇若手研究者の海外研修支援制度:  
35 名(教員 14 名・大学院生 21 名)へ海外渡航費用等を支援

産学連携等の研究基盤強化 【P.5左(5)、P.22右③】

- 本学における社会連携機能の中核組織「社会連携研究センター」内へ「地域戦略センター」など新たな組織の設置や、社会連携機能を有する学内施設の整理統合により「新産業創成研究拠点」等を設置
- 教員に対してリーフレット「公的研究費の適正な使用のために」の配付や、「公的研究費の不正使用に関する意識調査アンケート」を実施



◇研究者倫理の保持を含め、研究推進体制の基盤強化

附属病院

附属病院の自己収入増加に向けた取組 【P.6左(8)】

- 病院長・副病院長(経営担当)・診療科長をメンバーとする「経営懇談会」を集中的に開催
- 病床稼働率向上のための方策を検討



◇医薬品等の経費 約 8 千万円の節減  
◇病床稼働率(前年比) 4.05%向上  
◇稼働額(前年比)約 16 億円の増収

地域の救命救急医療体制の充実化 【P.6左(9)】

- 医学部附属病院内に「救命救急センター」を設置し、専任の教授を配置
- 三重県や消防関係機関と協同し、救急輪番体制の充実を前提とした救急搬送ルール(傷病者の搬送及び受入の実施に関する基準)を策定



◇三重県下における救急医療体制の基礎を構築

環境

「環境先進大学三重」としての独自の取組 【P.7右(4)】

- 3R活動 (Reduce・Reuse・Recycle) の推進
- ISO14001 の更新審査を受審し、認証登録の更新が決定
- 省エネルギー推進の中核組織「カーボンフリー大学推進室」の設置
- 「生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)」に係るパートナーシップ事業への参画と、「COP10in 三重」の同時開催



◇「第2回エコ大学ランキング(2010)」において、総合第1位獲得  
◇日本環境経営大賞の最優秀賞「環境経営パール大賞」受賞

練習船「勢水丸」

独自の大学間共同教育プログラムの策定 【P.7左(3)】

- 練習船「勢水丸」は、伊勢湾、九州の太平洋岸から伊豆半島・房総沖を包含した「黒潮流域」での長年に亘る洋上実習を展開
- 名古屋大学や四日市大学との共同利用を推進
- 実績と特性を生かした全国的な共同利用に対応する教育プログラムを策定



◇教育プログラムが文部科学省「教育関係共同利用拠点」4機関の一つに認定  
〈認定機関(認定順): 鹿児島大学、三重大学、北海道大学、長崎大学〉

教育組織

入学定員の適正化に向けた取組 【P.11左②】

- 学生定員に係る充足状況を適正化するため、社会的ニーズの動向調査等を踏まえ、入学定員の見直しを検討



◇平成 23 年度概算要求を行い、入学定員の改訂が認められた  
[工学研究科博士前期課程入学定員 148→216 +68]  
[医学系研究科修士課程(医科学専攻) 20→ 15 ▲ 5]  
[医学系研究科博士課程入学定員 60→ 45 ▲15]

三重の力を世界へ

平成 22 年度(2010)の実績・その2  
— 業務運営・財務内容等の状況編 —

教員人事

外国人教員・女性教員の増加に向けた取組 【P.6右(1)】

- 外国人教員の増加に向けて、雇用経費の 50%を事務局経費で負担する制度を継続
- 女性教員の増加に向けて、職場環境の改善策等について「男女共同参画推進専門委員会」を中心に検討し、シンポジウム等を多数実施



◇外国人教員<7月1日時点・専任教員以外を含む>  
[教員数の推移]: 17名(H20) → 20名(H21) → 24名(H22)  
[教員比率]: 2.37%(H20) → 2.77%(H21) → 3.22%(H22)]  
◇女性教員<7月1日時点・専任教員以外を含む>  
平成 22 年度女性教員配置状況: 108 名  
[前年度比4名増、女性教員比率 14.38%→14.48%]

教員個人評価の推進 【P.7左(2)】

- 平成 21 年度から本格的に取り組んでいる教員個人評価を実施し、その評価結果を期末勤勉手当(12 月期)と普通昇給(1 月期)へ反映



◇教育研究活動の活性化に向けて評価結果を給与制度へ反映  
[特に優れた者の教員数]: 122 名  
→うち勤勉手当(12 月期)への反映者数: 55 名  
→うち普通昇給(1 月期)への反映者数: 44 名

自己収入

自己収入の増加に向けた施策の実施 【P.15左①】

- 科学研究費補助金獲得に関する説明会や「アドバイザー制度」等を実施
- 「自律的な自己収入確保の拡大策等検討会」の開催をはじめ、「学校財産貸付料の見直し」、「農場生産物の売払い価格の見直し」等を実施



◇科研費の応募件数・採択件数等の増加  
[科研費の獲得状況](秋公募分)  
・応募件数(新規課題) 441件<H21 応募分> → 460件<H22 応募分>  
・採択件数(新規課題) 106件<H21 応募分> → 142件<H22 応募分>  
・採択金額(直接経費・内定時) 約 5.4 億円<H21 応募分>→約 5.5 億円<H22 応募分>  
◇全体的な自己収入の状況 約 500 万円の増額(平成 21 年度比)

【参考】他機関との科研費獲得状況の比較(春秋公募実績・文部科学省公表データより)

区分	平成 21 年度 (H20 春・秋応募分)		平成 22 年度 (H21 春・秋応募分)		平成 23 年度 (H22 秋応募分)	
(件) 採択件数	250	全機関【37位】 国立大【28位】	296	全機関【37位】 国立大【28位】	338	全機関【36位】 国立大【27位】
(千円) 配分額	530,600	全機関【46位】 国立大【29位】	534,200	全機関【45位】 国立大【31位】	554,196	全機関【44位】 国立大【31位】

自己点検・評価

第 1 期を対象とした自己点検・評価の実施 【P.18左①】

- 第 1 期中期目標期間(平成 16-21 年度実績)を対象とした自己点検・評価を各部署を含め全学的に実施



◇自己点検・評価報告書「紡ぐ」をとりまとめ、同報告書を本学ウェブサイトへ掲載し、社会へ公表

教育研究環境の整備

新たな整備手法の導入による教育研究環境の改善 【P.22左①】

- 自主財源によって、医学部入学定員の増加に対応した、講義室等の耐震・機能改修整備、学生の生活環境改善策として「女子学生寄宿舎」の改修工事を実施
- 自主財源や「三重大学振興基金」等の外部資金を活用して、学生支援や教職員支援、地域交流の活性化を目的とした「環境情報科学館」の建設を計画



◇教育研究環境の充実